

あいち病害虫情報 最新情報

平成30年10月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

向こう1か月の日照時間は平年並か少ない

名古屋地方気象台10月11日発表の1か月予報によると、向こう1か月は、平年に比べ晴れの日が少ない見込みで、日照時間は平年並か少ないとされています。

果樹の病害虫

新都市に設置した予察灯において、果樹カメムシ類の誘殺数が9月に入ってから急増し、現在も多い状況です。カンキツやカキで被害の発生が予想されます。防除対策等は、9月14日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

ナシ黒星病の発生が多かったほ場では、次作への伝染源をなくすことが重要です。落葉の処理やりん片への感染を防ぐ農薬散布を実施しましょう。詳細は、10月2日発表の「ナシ黒星病情報第1号」を参照してください。

キャベツ黒腐病などの細菌性の病害に注意！

キャベツ黒腐病やキャベツ及びハクサイの軟腐病など細菌が原因となる病害は、風雨により発生が助長されます。降雨が続くと予想される場合や、台風などの激しい風雨が予想される場合は、降雨前後に抗生物質剤や銅水和剤などで防除しましょう。昨年度、発生の多かったほ場では特に注意しましょう。なお、銅水和剤を用いる場合は、炭酸カルシウム水和剤（クレフノンなど）を加用して、薬害の発生を防ぎましょう。黒腐病の防除については10月2日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

ハクサイのべと病に注意！

10月上旬の調査で、一部のほ場でべと病の発生が見られました。降雨が多く、日照が少ない場合に多発しやすくなります。ほ場での発生状況に注意し、薬剤散布は葉裏に薬剤がよくかかるように行いましょう。

コナガの発生に注意！

コナガの10月上旬の発生量は、ハクサイほ場においてやや多く、キャベツほ場においては平年並です。ほ場での発生状況に注意しましょう。コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用を避けて防除しましょう。

ハスモンヨトウ誘殺数増加！チョウ目害虫の発生に注意

ハスモンヨトウの10月上旬のキャベツほ場における発生量は平年並ですが、フェロモントラップにおける誘殺数が急増しており、注意が必要です。

シロイチモジヨトウは、10月上旬のキャベツほ場における発生量とフェロモントラップにおける誘殺数が多い状況が続いています。

オオタバコガは、10月上旬のキャベツほ場における発生量とフェロモントラップにおける誘殺数は平年並です。

いずれのチョウ目害虫もほ場での発生状況に注意し、適宜防除しましょう。

施設野菜の病害に注意！

長雨が続いた場合、施設野菜においてトマトすすかび病やナスすす斑病、キュウリべと病などの病害の発生が増加する可能性があります。発生状況に注意し、防除を徹底しましょう。

イチゴの病害虫

ハダニ類は多発した後では防除が難しくなるので、気門封鎖型薬剤を積極的に活用し、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。

炭疽病は、気温の高い状況が続くと発生量が多くなります。引き続き発生に注意して、発病株を見つけたら速やかに抜き取り処分しましょう。

ダイズの害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、地域によって差はあるものの概ね平年並の状況です。オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は西尾市で多い状況ですが、その他の地域では平年並です。また、西三河地域を中心にシロイチモジヨトウの寄生を確認しています。吸実性カメムシ類やチョウ目害虫の発生が多いほ場では、収穫前日数に注意して防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820